

メモリアルデー特別集会のための
メッセージアウトライン

主題：

ピリピ人への手紙に啓示されているように、
キリストを認識し、経験し、享受する

標語：

わたしたちはキリストをすべてとし、いっさいの事柄においてキリストを
獲得するために、絶えずわたしたちの自己を否むこととわたしたちの霊に戻
ることを学ばなければなりません。

わたしたちは、魂において一となって、キリストを享受する必要があります。
魂において一となって、キリストを享受することは、一つの事を思うこ
とによってであり、キリストの内側の各部分（心の深み）においてキリスト
と一であることによってであり、神にわたしたちの内でも活動していただき、
神の大いなる喜びのために、願わせ働かせるようにしていただくことによっ
てです。

わたしたちはパウロのように、キリストと彼の復活の力と彼の苦難の交わ
りを知り経験して、クリスチャン生活の型としての彼の死に同形化される
ことを切望すべきです。

わたしたちはキリストの死に同形化されて、格別な復活に到達する必要が
あります。これが、主が彼の回復の中で前進する唯一の道であり、主が彼の
召会を建造する唯一の道であり、花嫁が自分自身の用意を整える唯一の道で
あり、主の再来をもたらす唯一の道です。

メッセージ 1

わたしたちの自己を否んでわたしたちの霊に戻ることによって、
キリストをすべてとし、彼を獲得する

聖書：マタイ3:17. 12:18. 16:24. マルコ9:7-8. II コリント2:10.
ガラテヤ1:15前半, 16前半. コロサイ2:16-17

I. キリストは、神の心の願いです——マタイ3:17. 12:18. 17:5. ガラテヤ1:15前半,
16前半：

- A. 神の心の願いは、宇宙におけるあらゆる人、事、物がキリストを表現することです。万物がキリストの中でかしらにつり上げられるとき、完全な平安と調和があり、宇宙の中の万物はキリストを表現します——コロサイ1:15-19. 3:10-11. エペソ1:10, 22-23. 4:15-16. イザヤ55:11-13。
- B. わたしたちが存在するのはキリストを表現するためであり、わたしたちが福音を宣べ伝えるのはキリストを表現するためであり、わたしたちの働きはキリストを表現するためであり、召会はキリストを表現するためです——43:7. II コリント4:5. I コリント15:58. ヨハネ17:23. エペソ1:23. 3:19-21。
- C. キリストは、宇宙の中のあらゆる積極的な事物の実際です——コロサイ2:16-17：
1. 宇宙全体は、神によって描かれた大きな絵であり、それはキリストについて語っており、キリストを描写しており、キリストを表現するためです——1:15-17. 詩19:1-6. ローマ1:20. ヘブル11:3。
 2. 毎日、わたしたちはキリストを食べ飲みし、毎週、キリストの中で完成と安息を持ち、毎月、キリストの中で新しい開始を経験し、一年中、キリストはわたしたちの喜びと享受です——コロサイ2:16-18前半。
- D. わたしたちが内側で見て、認識しなければならないことは、神がキリストご自身以外に何も求めていないということです。神の回復における彼の目標は、わたしたちのすべてとしてのキリストを回復することです——I コリント1:9：
1. キリストがわたしたちの中へと入るとき、彼はわたしたちの命となりたいたいでなく、わたしたちのすべてともなりたいのです。彼は、わたしたちの命の息（ヨハネ20:22）、命の水（4:14. 7:37-39）、命のパン（6:35, 48）、命の光（1:4. 8:12）、命の住まい（14:23. 15:1, 4-5）です。
 2. わたしたちは主のものにふさわしく歩いて、すべての事で主を喜ばせ、あらゆる善いわざで実を結ばなければなりません。それはあらゆる面において、キリストを生き、キリストを成長させ、キリストを表現し、キリストを増殖させることによってです——コロサイ1:9-10。
 3. わたしたちは、神に、キリストをわたしたちの中へと造り込んでいただかなければなりません。そしてついには、彼はわたしたちのすべて、すなわち、わたしたちの極めて大きな喜びと極めて大きな褒賞となります——エペソ3:16-19. 詩43:4前半. 創15:1. ヨハネ15:11. ローマ14:17. ペリピ3:14。
 4. 今日のわたしたちの最大の必要は、キリストがその霊であって、わたしたちの霊に内住していることを、見ることです。もしわたしたちがこの点を見なければ

ば、キリストのすべてはわたしたちにとって単なる客観的な教理となります—
—I コリント15:45後半. II コリント3:17—4:1. II テモテ4:22. I コリント6:1
7. ヨハネ4:24.

5. キリストは言でもあります。わたしたちがわたしたちの霊をもって主の言に触
れるとき、彼の言葉は霊となります。彼の言葉が霊となるとき、その霊がわた
したちの中へと入り、それによってわたしたちは完全に彼によって占有され、
彼によって造り変えられ、彼とミングリングされて、神の心の願いを満足させ
ることができます—エペソ6:17-18. ヨハネ5:39-40. 6:63.

E. わたしたちはすべてを含むキリストを見て、彼を享受する秘訣を学んだなら、主
の回復に対して忠信になります—マルコ9:7-8. 使徒26:19, 22. I コリント1:2,
9-10. 2:9-10. II コリント2:10. II テモテ4:9-18. ピリピ1:19-21前半:

1. わたしたちは彼に集中すべきであって、彼以外のいかなる人、事、物にも集中
してはなりません。わたしたちは神によって定められた唯一の中心としての彼
に焦点を合わせるべきです。それによって信者たちの間のすべての問題は解決
されます—I コリント1:9. 啓2:4-5. コロサイ1:17後半, 18後半.

2. ある人が主の回復から離れることが意味するのは、彼が決して回復が何である
かを見たことがないということです。わたしたちが回復の中で確固としている
かどうか、分裂から保護されるかどうかは、わたしたちの見たビジョンにかか
っています。わたしたちはキリストに焦点を合わせることによってのみ、分裂
から救われることができます。

3. わたしたちは、わたしたちの唯一の中心、選択、好み、味わい、享受としての
キリストだけを顧慮するなら、このことは主の来臨に至るまでわたしたちを主
の回復において召会の中で保護します。そうでなければ、わたしたちは失望し、
そらされ、主の回復を放棄するでしょう。

II. わたしたちはピリピ人への手紙におけるパウロの模範に従って、キリストをすべて としなければなりません:

A. 「なぜなら、わたしにとって生きることはキリストであり」。パウロはキリストを
自分の生活としました—ピリピ1:21前半.

B. 「かえっていつものように、……生きるにも死ぬにも、今なおキリストが、わたし
の体において大きく表現される」。パウロはキリストを自分の表現としました—
20節.

C. 「キリスト・イエスの中にあつたこの思いを、あなたがたの内側でも思いとしなさい」。
パウロはキリストの思いを自分の思いとしました—2:5.

D. 「そして、キリストの中に見いだされるためです。それは、律法に基づくわたし自
身の義を持つのではなく、キリストにある信仰を通しての義、すなわち、信仰に
基づく神からの義を持って」。パウロはキリストを自分の生かし出された義としま
した—3:9.

E. 「わたしの主キリスト・イエスを知る知識の卓越性のゆえに、……その方のゆえに、
わたしはすべての事で損失を被りましたが、それらをちりあくと勘定します。
それは、わたしがキリストを獲得するためであり」。パウロはキリストを知る知識

が超越していると考えました——8節。

- F. 「ただ一つの事、すなわち、後ろにあるものを忘れて、前にあるものに向かって体を伸ばしつつ、キリスト・イエスの中でわたしを上を召してくださった神の賞を得るために、目標に向かって追い求めています」。パウロはキリストを自分の目標としました——13-14節。
- G. 「兄弟たちよ、何であれ真実なこと、何であれ誉れあること、何であれ義なること、何であれ純粋なこと、何であれ愛らしいこと、何であれ好評なこと、またもし何らかの徳があり、何らかの称賛があるなら、これらのことを考慮しなさい」。パウロはキリストを自分の美德としました——4:8。
- H. 「わたしは、わたしを力づけてくださる方の中で、いっさいの事柄を行なうことができるのです」。パウロはキリストを自分の力とし、キリストを自分の卓越した生活として生かし出しました——13節。
- I. 「わたしはどんな境遇でも、満ち足りることを学んだからです。わたしは卑しくなる道を知り、また豊かになる道も知っています。あらゆる事において、またいっさいの事柄において、わたしは飽くことにも飢えることにも、豊かであることにも乏しくあることにも、秘訣を学びました」。パウロはキリストを自分の秘訣としました——11-12節。参照、4-7節。
- J. 「わたしたちの国籍は天にあります。そこから救い主、主イエス・キリストが来られるのを、わたしたちは熱心に待ち望んでいるのです。キリストは、万物を彼ご自身に服従させることができる彼の活動によって、わたしたちの卑しい体をも変貌させ、それを彼の栄光の体に同形化してくださいませ」。パウロはキリストを自分の期待としました——3:20-21。

Ⅲ. わたしたちがキリストを獲得するのは、キリストがわたしたちを獲得するためです（ピリピ3:12。参照、ハバクク1:1）。それは以下の点にしたがってです：

- A. キリストを獲得することによって、わたしたちは神の臨在（霊なるキリスト）の感覚を持ちます——ヨハネ20:22。出33:11前半、14：
 - 1. わたしたちはただ一つの事だけを恐れるべきです。それはわたしたちの主の臨在を失うことです——Ⅱコリント2:10。参照、エペソ4:30。Ⅰテサロニケ5:19。
 - 2. 「彼は二日の後わたしたちを生かし、三日目にわたしたちを起き上がらせ、わたしたちは彼の臨在の中を生きる」（ホセア6:2）。三日目の実際は、復興（ハバクク3:2）の実際を伴う復活のキリストのパーソン（臨在）です。
- B. キリストを獲得することによって、わたしたちは内側で明るさと明確さを感じます——啓22:1。ヨハネ1:4。8:12。エゼキエル1:22, 26。
- C. キリストを獲得することによって、わたしたちは霊の食物また霊の飲み物としてのキリストが内側に供給されるのを感じます——Ⅰコリント10:3-4。ヨハネ6:57。4:10, 14, 24。Ⅰコリント12:3後半, 13。
- D. キリストを獲得することによって、わたしたちは命において成長し、彼のかたちへと造り変えられます——コロサイ2:19。Ⅱコリント3:18。ローマ12:2。
- E. キリストを獲得することによって、わたしたちは活力を持ち、事を行ないます——ダニエル11:32後半。使徒1:8。5:20。13:1-4。Ⅰコリント14:31。参照、エゼキ

エル3:1-3. 詩68:11-13, 19。

IV. わたしたちはキリストをすべてとし、いっさいの事柄においてキリストを獲得するために、絶えずわたしたちの自己を否むこととわたしたちの霊に戻ることを学ばなければなりません：

- A. わたしたちは完全にわたしたちの霊の中へと入らなければなりません。なぜなら、その霊としての主、すなわち、からだの実際は、わたしたちの霊の中にあるからです——Ⅱテモテ4:22. エペソ1:17. 2:22. 3:5, 16. 4:23. 5:18. 6:18。
- B. わたしたちは、どのように思いを霊に付けるかを学ばなければなりません。言い換えれば、わたしたちはどのように神に信頼し、主に依り頼むかを学ばなければなりません。召会生活のためにクリスチャン生活をする真の秘訣は、わたしたちが思いを霊に付けることです——ローマ8:6。
- C. 霊に戻ることが、クリスチャンであることの秘訣です。主に従い、主の豊富を享受し、キリストのからだの実際の中に生き、新約の務めの中で機能する道は、わたしたちの自己を拒絶し、わたしたちの魂の命を失い、わたしたちの霊に戻ることが、絶えず訓練することです——Ⅱコリント3:3, 6, 16—4:1. Ⅱテモテ4:22. ピリピ1:19. ローマ8:16。
- D. わたしたちが聖霊の力によって遂行する主の働きは、霊で始まり霊で終わる働きです。この働きは、わたしたちの霊から始まり、他の人たちの霊の中で終わります——Ⅰコリント2:4-5, 13, 15. Ⅱコリント3:6. 13:3. 参照、詩42:7前半。
- E. わたしたちは、神と接触し神を受け入れるための霊を持っており、神を生かし出し表現するための魂を持っています。神を受け入れ、神を生かし出し、神を表現することが、わたしたちの喜び、娯楽、楽しみであるべきです——ヨハネ4:10, 14, 24. 6:57. ルカ1:46-47. Ⅰコリント10:31。
- F. 魂が神によって創造された目的は、彼を表現するためであって、魂自身の享受や好みを持つためではありません。神のエコノミーにおいて利己的な享受はありません。パウロの務めは、キリストの豊富を恵みとして信者たちに分与して、彼らに享受させることでした——創1:26. 2:7. エペソ3:2。
- G. わたしたちの自己を否むことが意味するのは、魂の願望、好み、選択を拒絶することです。人の最初の罪は、自分自身のためにある事を行なって、自己を満足させることでした——創3:1-7。
- H. わたしたちの自己（わたしたちの墮落した魂の思い、感情、意志）から出て来るものはすべて、サタンと悪鬼につながっています——マタイ16:21-27：
1. イスラエルはエホバの不貞の妻として、邪悪になりました。わたしたちが認識する必要があるのは、いったんわたしたちが神を捨てるなら、わたしたちもあらゆる種類の悪を行なう可能性があるということです——ホセア4:1. エペソ4:17-21。
 2. わたしたちが認識しなければならないのは、もしわたしたちが霊の中で神との交わりの中にとどまらなければ、わたしたちは神の臨在を失ってしまい、肉の中において、この世の人と同じように振る舞ってしまうことがあり得るということです——ピリピ2:1-2. Ⅰヨハネ1:3. エペソ4:17-19. 創第20章. 参照、12:1

1-13. 13:18。

3. わたしたちは、わたしたちの霊の中の神との交わりから休暇を取って離れることはできません。わたしたちの保護は、わたしたちの自己ではなく、神の臨在です—— I ヨハネ1:3. 参照、詩31:20。

I. 祈りは、真に自己を否むことです：

1. 実は、わたしたちは長々と祈る必要はありません。ただ、「おお、主イエスよ」と呼ぶだけで十分です。そのような短い祈りでさえ、「もはやわたしではなく、キリスト」を意味します——ローマ10:12-13. ガラテヤ2:20。
2. わたしたちの祈りが証ししていることは、わたしたちが自己の努力によって状況を対処する（「悪鬼を追い出す」）ことをしないで、キリストを適用するということです——マルコ9:14-29。
3. 祈ることは、キリストと彼の死と復活が、わたしたちの置き換えであるというビジョンを実行することです。それによってわたしたちは、完全に「キリスト化されて」、神の心の願いを満足させます——2-13節。

©2023 *Living Stream Ministry*